

# 造影 MRI 検査を受けられる患者様への説明書

あなたが受けられる MRI 検査では、「ガドリニウム造影剤」もしくは「酸化鉄コロイド造影剤」という種類の注射がおこなわれます。この説明書をお読みになり、ご不明な点は主治医や看護師、担当技師に質問していただき、納得されましたら問診表に記入していただいたうえ、同意書に署名をしてください。

## 1. 造影検査の必要性

★造影剤は画像検査で診断を容易にするために使用される検査用の薬剤です。造影剤は血管内に注射され、全身の血管や臓器に分布します。造影剤の使用によって病気の性質や血管や臓器の様子が鮮明に描出されるようになり、あなたの病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。造影剤を使用しなくても MRI 検査は行えますが正しい検査結果を得られない場合があります。

## 2. 造影剤投与による偶発症(一定の頻度で起こりうる合併症)

★造影剤は安全な薬剤ですが、まれに次のような偶発症が起こる場合があります。

★注射に際して、造影剤の漏れ、末梢神経障害による痛みが起こることがあります。

★ 軽い副作用として、吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、発疹などがみられます。

これらの軽い副作用の起こる頻度は、約 100 人に 1 人(約 1%)です。

★重い副作用として、呼吸困難、意識障害、血圧低下、ショック、末梢神経障害による激しい痛み、全身性の線維症などがみられます。治療のため入院や手術が必要なこともあります。また後遺症が残る可能性もあります。このような重い副作用の起こる頻度は、約 1 万人につき 5 人以下(約 0.05%以下)です。

★非常にまれですが、病状、体質によっては約 100 万人につき 1 人の頻度(0.0001%)で、死亡する場合があります。

★副作用は注射後 30 分以内に現れる場合がほとんどですが、検査終了後 1 時間から数日の間に遅発性に生じることもあります。

★なお、造影剤の注射を受けた時には 1,2 分間ほど体が熱く感じる(注射時の熱感)がありますが、血管に対する直接の刺激による正常な反応で一時的なものであり、心配ありません。

★アレルギー歴、特に気管支喘息、重い腎機能障害、造影剤の副作用歴がある場合には副作用の危険性が高くなります。

## 3. 造影剤注射時の注意点

★勢いよく注射するため、血管外に造影剤が漏れてしまうことがあります。その場合、注射した部位が腫れて痛みを感じることがあります。時間がたてば吸収され、後遺症が残ることはほとんどありません。

★検査中や検査後に異常を感じた場合は、ためらわず、すぐにおっしゃってください。検査にあたっては十分に注意をはらい、万一の事態にも適切な対応が出来る体制をとっていますが上記のようなリスクがあることをご理解ください。